

登録コード	L2620400	開講年度	2026				
担当教員	速水 香織			副担当			
授業科目	日本文学史						
英文授業名	Cultural Anthropology						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前が対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる受容力			異なる時代・文化を理解しようと努め、文献を中心とする情報から重要な内容を把握し、自ら文章化することができる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			異なる時代・文化を理解しようと努め、文献を中心とする情報から重要な内容を把握し、自ら文章化することができる。			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	古典作品は、時代の移り変わりの中で研究され、様々な解釈を与えられながら長い時間を経て現代にまで受け継がれてきました。本講義では、特に和歌文学を中心にその研究史を確認しつつ、平安時代から江戸時代に至る古典文学作品の受容のさまを取り上げます。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：古典作品の研究と注釈 ―『万葉集』の時代 第3回：古典作品の研究と注釈 ―『古今和歌集』成立と仮名序 第4回：古典作品の研究と注釈 ―『古今和歌集』の部立と和歌内容 第5回：古典作品の研究と注釈 ―『古今和歌集』と二十一代集―歌論・歌学の成立 第6回：古典作品の研究と注釈 ―歌ことばと連歌・俳諧の季語 第7回：古典研究の担い手 ―歌道家の発生と「古今伝授」なるもの1 第8回：古典研究の担い手 ―歌道家の発生と「古今伝授」なるもの2 第9回：古典研究の担い手 ―『新古今和歌集』とそれ以後 第10回：古典研究の担い手 ―中世における歌道家と御子左家の分裂 第11回：古典研究の担い手 ―古今伝授資料について 第12回：古典研究の担い手 ―「古今伝授」近世に至る 第13回：和歌文学の変容 ―近世における和歌文学の受容と新たな文芸への広がり 第14回：和歌文学の変容 ―和歌と連歌・俳諧の文芸史（近代に至る） 第15回：まとめ なお、13～15回のいずれかにおいて、授業アンケートを実施する。						
成績評価の方法	毎回の講義で提出するコメント（60%）、期末レポート（40%）によって評価します。						
成績評価の基準	コメント：授業内容への言及・質問の内容によって授業の理解度や受講態度を判断します。 授業中の内容を自己の知識や知見と有機的に結び付け、かつ自身の学修に基づく優れた内容を述べることでできていれば「卓越している」、授業に関し具体的に優れた内容を述べることでできていれば「かなり上にある」、授業中の内容に関し具体的な内容を述べることでできていれば「やや上にある」、授業中の内容に触れた見解を述べることでできていれば「その水準にある」と評価します。 レポート：講義内容を把握・理解した上で、日本文学史に関する明確な自己の知見・見解を持つことを、成績評価の水準とします。これが卓越していれば秀、かなり上にあれば優、やや上にあれば良、水準には達していると認められれば可とします。						
事前事後学習の内容	毎回の講義において様々な作品を紹介しますが、取り上げる作品は事前に連絡します。その作品等についてあらかじめ目を通すなど情報を得ておくことを事前学習とします。 また授業後、自己の興味関心に沿って積極的に作品およびその背景の理解に努めることを事後学習とします。						
履修上の注意	毎回の講義で提出いただくコメントの内容を重視します。ただ漫然と講義を聞くだけではない、積極的な受講を望みます。 なお、授業中の私語その他迷惑行為は一切認めません。他の受講生の妨げになると教員が判断した場合、退室を命じ、単位認定を行わない場合があります。						
質問、相談への対応	木曜日12:10～13:00をオフィスアワーとします。面談を希望の場合は、事前にメール等で連絡をお願いします。 メールアドレスはkhayami@shinshu-u.ac.jpです。						
教科書	講義中に適宜プリントを配布します。						
参考書	『新版 日本文学大年表』（市古貞次、久保田淳編、おうふう2002年） 『歌ことば歌枕大辞典』（久保田淳、馬場あき子編、角川学芸出版2014）						

参考書	購入の必要はありません。 その他、講義中に適宜指示します。
-----	----------------------------------